



赤ちゃんに触れ、命の重さを感じる

～中学生と赤ちゃんふれあい交流事業10周年～



平成17年度に策定された市健康増進計画「健康しおがま21プラン」重点項目の1つに「母と子の健康」を選定し、平成20年度から本事業を開始しました。当時は、育児放棄や虐待が増加していて、本市の10歳代の望まない妊娠出産や中絶数は県内で高い数値を示していました。それは、親から十分な愛情を受けられなかった寂しさや、家庭・学校などに居場所がなかったからではないかと考えられます。

平成23年度からは市内4つの中学校3年生を対象に実施しています。

目的

- ①「生命の尊さ」や自分に向けられている親の愛情に気づき、自分の存在について考え、親との関係を見直しながら自己肯定感を高める。
- ②妊娠・出産・性感染症などの知識を深め、自分の命や性を大切にしたい考え方(自己決定力)が大事なことに気づく機会とする。



平成29年度「ふれあい交流」の様子

赤ちゃんふれあいコーナー



妊婦＆パパの出番コーナー



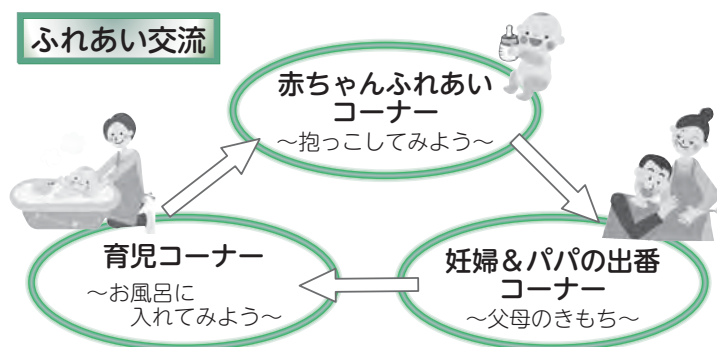
育児コーナー



内容

ふれあい交流(体験学習)と講演会の2本立て

ふれあい交流



講演会

『将来を担う君たちへのメッセージ』と題して、坂総合病院産婦人科医師船山由有子先生より、妊娠出産、性感染症やインターネットなどを介した性被害、10歳代の妊婦たちの現実を、他人ごとではなく、自分のこととして真剣な表情で受け止めています。



<協力者の声>

- ・笑顔で優しく赤ちゃんに向き合っている姿がとてもステキでした。(ボランティアより)
- ・お腹の子に優しく声がけ、ありがとう。(妊婦より)
- ・人と人とのつながりを大切に、笑顔で過ごしてくれることが父親として一番の幸せです。(育児中のパパより)



<中学生の声>

- ・赤ちゃんを育てていくことの大変さを学びました。私が赤ちゃんのころに母が大切に育ててくれたんだと、うれしく感じました。
- ・親が愛情をもって一生懸命育ててくれた命を大切に、自分が大人になったとき、赤ちゃんを一生懸命育てていきたいです。

10歳代の望まない妊娠出産・中絶数は、この10年で確実に減少はしていますが、子育て世代に対する地域住民の温かい見守りや声掛けはとても心強いものです。

この事業が地域のさまざまな年代の人達とのふれあい、自身の命や生き方、家族について考えるきっかけとなることも信じて、今後もこの事業を継続していきます。

問 保健センター ☎364-4786